

考察

本時の目標は、次の 2 点でした。

- ア 自分の生活を基に、心と体のつながりについて考えることができるようにする。
- イ 心と体が影響し合っていることを理解することができるようにする。

《目標アについて》

目標達成のために、次のような手立てを取りました。

- ① 表情の絵を提示することで、感情を捉えやすくする。
- ② ワークシートと板書を同じ形式にして、個人で考える際に考えが出やすく、記入がしやすいようにする。
- ③ T 1 は児童の考えを全体で共有させ、T 2 は個別に支援することで、児童が心と体のつながりについて関係を見付けながら考えることができるようにする。

目標ア「自分の生活を基に、心と体のつながりについて考えることができるようにする」が達成できたか、以下のように考察をしました。

自分の経験から心と体が影響し合っていることに気付くことができるように、運動会という時期を利用して、T 2 である担任が、徒競走直前の具体的な場面を例示し、不安なときの体の反応を全体で取り扱いました。①感情を表情絵で示したり (図 1)、②板書と同じ形式のワークシートを準備したりして、どの児童も意見を持てるよう手立てを取りました。これらを基に個人で考える場面では、心と体のつながりについて、自分の経験から、不安な気持ちになる場面を思い起こし、全員が、体に起こる反応を 2 つ以上記入することができていました (資料 1)。具体的な場面として、テストのとき、忘れ物をしたとき、夏休み最終日の宿題が終わっていないとき、友達に悪口を言われたとき、発表するときなどの場面を思い起こすことができていました。さらに、悲しいという気持ちについては、怒られたとき、友達とけんかをしたとき、災害などで亡くなった人がいるというニュースを見たとき、悔しいという気持ちについては、勝負に負けたとき、弟とけんかをして自分だけ怒られたときなど、身近な場面を想起することができていました。その上で、手足が震える、涙が出るなど体に起こる反応を全ての児童が 2 つ以上見付けることができていました。心と体のつながりを考えることができており、自分の生活と学習内容を結び付けることができていました。

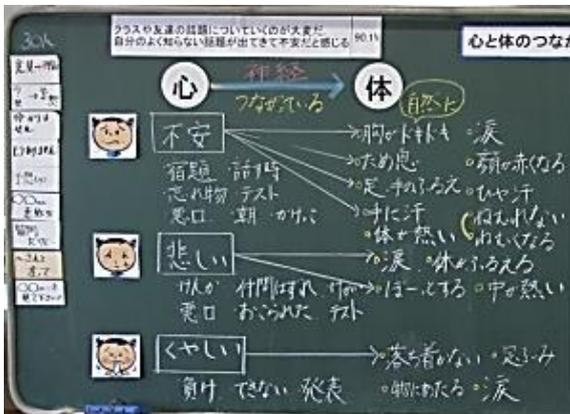
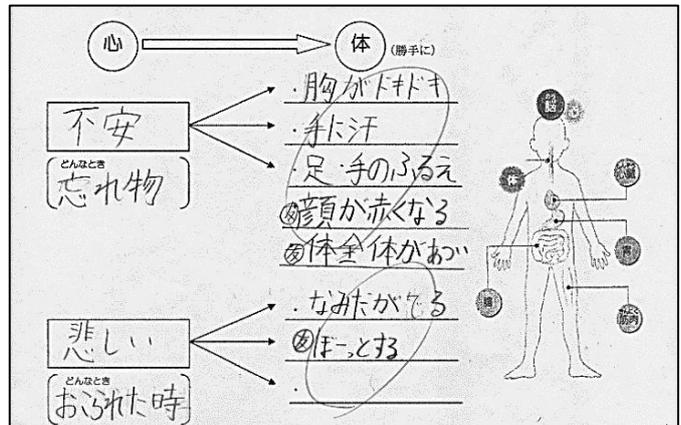


図 1 授業の板書



資料 1 児童のワークシート

《目標イについて》

目標達成のために、次のような手立てを行いました。

- ① 図を使って心と体の反応を線で結び、視覚的に捉えさせる。
- ② グループ交流を取り入れることで、他の友達の意見を聞き、自分との共通点、相違点に気付くことができるようにする。

目標イ「心と体は影響し合っていることが理解できるようにする」では、以下のように考察をしました。

心と体のつながりを具体的に捉えられるように、①黒板に貼った図（図 2）を使って、発表する児童自身が心と体の反応を線で結ぶ活動を取り入れました。全体交流の場で視覚的に捉えさせることで 87%の児童が心と体が影響し合っていることを理解できていました（資料 2）。

さらに、②グループ交流を取り入れることで、他の友達の意見を聞き、自分との共通点、相違点に気付くことができるようにしました。しかし、心が体に影響する場面や反応について、資料 3 のように、自分と同じ反応があること、自分とは違う反応が起こることがあることに気付くことができた児童は 17%にとどまりました。グループ交流の前に、話し合いの仕方や、気付きの書き方について説明をしていましたが、更にグループ交流の際に、机間指導をしながら交流の視点について具体的に説明をするなどの支援が必要だったと考えます。

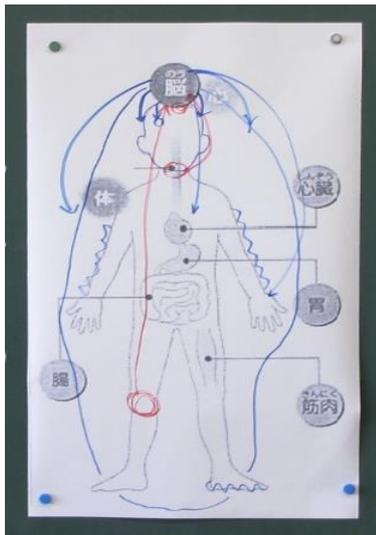
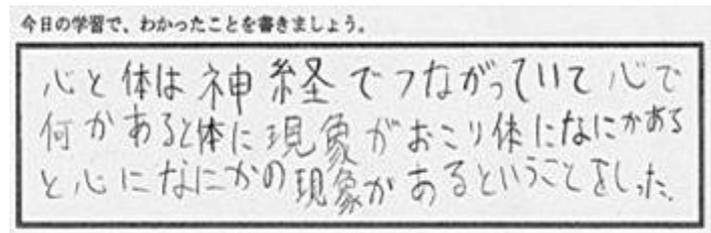
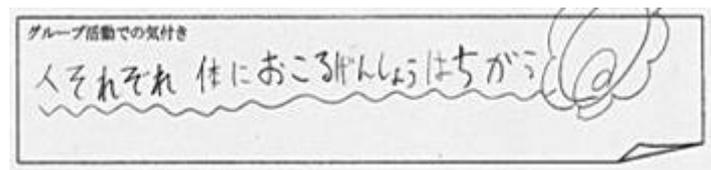


図 2 授業の板書



資料 2 児童のワークシートの記述



資料 3 児童のワークシートの記述